

第36回言語教授法・カリキュラム開発研究会 全体研究会 「映画を活用した外国語教育」

2013年12月7日（土）13時00分～16時10分に甲南大学8号館1階811講義室で第36回言語教授法・カリキュラム開発研究会全体研究会が40人の参加者を得て和やかな雰囲気で行われた。司会は国際言語文化センターのトーマス・マック准教授、開会の挨拶は国際言語文化センター所長の中村典子教授が行なった。以下に簡単な報告を行なう。

13：05－14：00

“Authentic Language Learning through Movies”

国際言語文化センター非常勤講師 神谷 久美子

近畿大学学芸学部教授 キム・カネル

神谷先生、カネル先生は共著で5冊、英語の映画を題材としたテキストを公刊された。本日の発表は「プラダを着た悪魔」の映画とテキストを例にどのような授業を行っているか報告していただいた。最初にお二人から、映画の英語は authentic - 自然な英語であるところが良い、またいろいろな国や地方の英語に触れることできるのもメリットであるというお話を伺い、その後カネル先生、神谷先生からそれぞれ映画を使用した授業の実践について伺った。

（カネル先生）

授業では10分位のシーケンスを考えるとよいとのこと。映画だけでなく、いろいろな素材が考えられる。授業の前に何を教えるかを考える。いくつかの基本的なテクニックとして音を消して何を言っているか考えさせる・音だけ聴かせる・ポーズを使うなどを用いる。ほかにも学生に質問を作らせたり、ロールプレイをさせたり、文化の比較をさせたり様々な活動があることを説明された。その後実際「プラダを着た悪魔」の最初の部分を使って、いくつかの場面でポーズをつけて、次を予想させ、関連する質問をする等の活動を紹介された。

（神谷先生）

神谷先生は実際の授業でどうテキストを使うか説明された。ひとつの Unit を2週で完結させる。1週目に準備する課題は、映画の中で使われている語彙やフレーズの意味を習得するための練習問題を解くこと。最初の週の授業の初めに日本語字幕で観て、内容を理解する。次に、2週目の授業のために内容把握の問題—True or False や Q&A を各自読んで、クラスで、ペアやグループワークで、答えを比べあう。最後に英語字幕で観て内容

を確認する。映画を観ながらシャドウイングをしたり、なぜ英語が聞き取りにくいのか、音の変化の解説も行なう。前期と後期の最後には Performance というイベントを開催する。この Performance では各 Unit の場面を学生に演じさせ、競わせる。これは学生に好評で、みんな普段の発表の声とは違って、大きな声で熱心にそれぞれの役になりきって演じるそうだ。

主な質疑応答は次の通り。

(質問) 著作権の問題はどうなっているのか。

(答) 出版社に任せている。著作権の問題は年々複雑になっている。

(質問) どういう映画を選ぶのか。

(答) 性的描写には気を使う。会話の多いもの、文化的背景のあるものを選ぶ。

(質問) 学生は何を目的に学習すればよいか。

(答) 映画は総合教材になるので教師が設定すればよい。

14:05-15:10

「教材としての現代フランス映画 (本編・予告編)」

国際言語文化センター 教授 ディー・ディエ・シッシュ

国際言語文化センター 教授 中村 典子

(シッシュ先生)

最初にスライドで映画を授業に活用するメリットを説明された。映画は日常文化を知るための絶好のツールで、生きた資料である。初級・中級では短い場面を使えば良い。次に実際に映画を少し紹介された。

『二人のロベール』(1978年) (挨拶自己紹介に使える)

実際に自己紹介するとき、名前だけ言ったり、握手をしたりすることを学生に示すことができる。

『アメリ』(カフェの会話)

カフェはフランス文化。会話は少ないが、初級レベルでわかるものも多い。

『パリ』(2008年) (パン屋さんの会話)

一度もフランスに行ったことのない学生にフランスの文化を体験させるよい機会。買い物はテキストに書いてある会話にも関連している。また現代フランス社会が抱える移民の問題も知ることができる。

『恋するシャンソン』(1997年) (出会い)

中級フランス語ではもう少し複雑な会話にも対応できる。

○予告編は慎重に選ばなければならない。

Tanguy (2001年、日本未公開) の予告編はシンプルで使いやすい。

(中村先生)

なぜ映画を教材として使うのか、スライドを使って説明された。映画はリスニングだけでなく、スピーキングにも役に立つ。中村先生は、フランス映画 *La Petite Lili* のDVD 発売にあたって字幕翻訳・吹替翻訳を担当し、シナリオの著作権も得た経験を語った。

次に、ソフトウェアの WinDVD を使って DVD の音声の速度を遅くする方法を紹介された後、今度は CD の音声の速度を遅くする方法について、Windows Media Player を利用して CD を取り込み、プレイビュー画面で操作できることを実際に示された。

最後に、映画『大統領の料理人』の予告編を見た。そして、「上級フランス語 I」を受講している学生が、昨年度、当該映画が日本未公開の時点で、予告編を使って、この映画の紹介をするプレゼンテーションを iPad の Keynote で行っているビデオを紹介された。主な質疑応答は以下の通り。

(質問) なぜシナリオ教科書 *La Petite Lili* のテキストは2200円で発売できたのか。自分はスペイン映画の教材を作ろうとしたが、著作権が高すぎてできなかった。

(答) クロード・ミレル監督がすべて無償で提供してくれたから。

15:10-15:40

「中国における対外漢語教学の教材開発」

国際言語文化センター 准教授 石井 康一

石井先生はスライドを使用してほかの言語の教授法を学んでいることを紹介された。次に中国での孔子学院についてや台湾での学会でのエピソードについて話された。中国では映画を活用した外国語教育は英語など他の言語に比べるとそれほど進んでいないように思われると説明があった。その後「我的兄弟姐妹（再見）」(2001年) など7つの映像を提示された。

また本学の中国語の授業では基礎英語・中級英語では統一してオリジナルのテキストを使用しているので映画は使わないが、「言語と文化」の講義では使っているとの説明があった。また子供向けのアニメは中国語もわかりやすいのでよく使われる。たとえばドラえもん使われている日本語のダジャレは中国語ではどう訳すのか、学生に考えさせ、実際の字幕を見せて解説するそうである。

15:50-16:10

主な質疑応答は以下の通り。

1. (会場から発表者の皆さんへ質問) 字幕のついていない映画をどう使うか。
(シッシュ先生：答) 字幕付き、フランス語字幕、日本語字幕を使い分ける。
(カーネル先生：答) 字幕なしの場合単語だけ聞き取る、または推量させる。
(中村先生：答) 字幕がまったくないものを使うのも大事。

2. (カーク先生から発表者の皆さんへ質問) 学生からどんな映画を使って勉強すればいいかと聞かれたらどう答えるか。

(神谷先生) スラングの少ない、家族の会話、ラブストーリーなどを勧める。

(カーネル先生) 自分がかっこいいと思う映画がいい。

(中村先生) フランス映画の認知度は低いですが、娯楽のハリウッド映画だけが映画でないことを主張したい。

(シッシュ先生) フランスの文化、メンタリティーを知るためにもフランス映画を見てほしい。最近の映画でなまりがなく、パリが舞台の映画など。世代によっても話し方が変わる。

(石井先生) 中国の You Tube とでもいうべき優酷 (<http://www.youku.com/>) の字幕入り映画やドラマを勧めている。

3. (金先生から感想と質問)

映画を外国語教育に使うのはどちらかといえば反対。ただし文化を教えるにはいいと思う。部分的にフランス語のように使うのは賛成。映画は実際との「飛躍」が多い。ホームドラマの方がいいのではないか。訛りの問題はどのようにするのか。

(カーネル先生の答)

もちろん90分全部を使うわけではない。映画は本物の言語を使うので学生にはよい。

(神谷先生の答)

どうして映画を使うのがダメなのか逆に聞きたい。

この続きは懇親会で行っていただきたいとマック先生がしめくくった。

16:10

まとめと閉会の挨拶

国際言語文化センター准教授 谷守 正寛

谷守先生はそれぞれの発表から自分の授業に取り入れたいものをピックアップしまとめると述べられた。英語の発表からは動画を止めてトリビアクイズ、ロールプレイなどのテクニック、フランス語からは自然な会話の部分を使うこと、中国語からは会話で一方の発話を消すテクニックなどが印象的だったとのこと。

(文責：伊庭 緑)